

JICA 環境社会配慮助言委員会 第 76 回全体会合

2017 年 1 月 16 日 (月) 14:30 ~ 17:30

JICA 本部 1 階 111・112 連結会議室

議事次第

1. 開会

2. ワーキンググループ会合報告および助言文書確定

- (1) カンボジア国プノンペン - バベット高規格幹線道路整備事業 (協力準備調査 (有償)) ドラフトファイナルレポート (12 月 2 日 (金))
- (2) インド国北東州道路網連結性改善事業 (フェーズ 2) (協力準備調査 (有償)) ドラフトファイナルレポート (12 月 12 日 (月))

3. WG スケジュール確認 (別紙 1 参照)

4. その他

- (1) 助言委員会運営改善レビューについて

5. 今後の会合スケジュール確認他

- ・ 次回全体会合 (第 77 回) : 2017 年 2 月 6 日 (月) 14:30 から (於 : JICA 本部)

6. 閉会

以上

環境社会配慮助言委員会 運営改善のレビューについて

2017年1月16日

JICA環境社会配慮助言委員会事務局

背景

- 2016年8月、9月の全体会合において、助言委員会の運営改善について議論。以下について改善策を試行的に導入、一定期間経過後にレビューし、本格的な導入の可否につき検討することとした。
 - 環境レビュー報告および助言対応説明の合理化
 - 事前配布資料の質の改善
 - WG会合の当日運営(資料送付、事前質問等)
 - WGの議事録作成
 - 補完型調査の扱い
 - 助言確定
(その他、リマインド事項として助言の有効性や、WG運営について確認)
- 2016年9月以降、9件のWG(SC案:2件、DfR/環境レビュー:7件)を開催。
- 事務局にて、9件の状況を以下で整理。

改善策の導入状況(1)

改善策	導入実績
環境レビュー報告および助言対応説明の合理化 【課題】 ● 協力準備調査を実施している場合、DFR段階のWGと全体会合における環境レビュー段階の報告との間で重複感がある。 ● DFR段階や環境レビュー段階の助言に対して、「FRに記載」等の対応が多く見られる。 ● 環境レビュー方針・結果の報告のために担当課の時間的拘束が生じている。 【改善策】 ● DFR段階のWGで環境レビュー方針案をWGの議論に付すことも可能とする。 ● DFR段階および環境レビュー段階の助言に対する助言対応表については、全体会合における書面配布のみとする。	【助言対応表の配布】 1件（12/9 ベンチェ省水管理 DFR）

改善策の導入状況(2)

改善策	導入実績
事前配布資料の質の改善 【課題】 ● 事前配布資料にWG当日の議論に十分な情報が含まれていない場合があるため、事前質問数の増加・当日の議論の長時間化の一因となっている。 【改善策】 ● JICA事務局として、これまでの助言委員会の議論も踏まえて、資料作成の手引きを作成し、事業担当部・調査団に対する事前の指導を行う。 ● 資料の質の担保には一層の努力を払うが、JICA事務局としてWG会合に諮るだけの質が担保できないと判断される場合は、WG会合の開催通知後、資料配布時まで開催延期を決定することもあり得る。	● 2016年8月以降、資料作成に際し、留意すべきポイントを関係部に周知し、個別ケースにおいても入念に確認を行い、質の改善を図った。 ● 資料の質を理由に開催延期をしたWGはまだない。

改善策の導入状況(3)

改善策	導入実績
<u>WG会合の当日運営（資料送付、事前質問等）</u> 【改善策】 ● 事前配布資料の送付および委員からの質問等に関する期限を以下の通り変更。（回答表は遅くともWG会合前日まで、可能な限り早期にWG担当委員に送付） ✓ 委員への事前配布資料の送付：14営業日前 ✓ 委員からの質問・コメント締切：7営業日前 ● WG委員からの事前質問には「質問のねらい」も併せて記入し、議論のポイントを明確化する。 ● 事前配布資料はWG担当委員のみに送付し、他の委員は求めに応じて別途配布する。（情報管理の観点）	● 2016年10月31日のWG以降の案件（6件）で導入。回答表は全件WG前日までに送付。 【事前配布資料の遅れ】 1件（11/25 インドシップリサイクル：土壌・生物調査やSHM結果の遅れ） 【委員からの質問・コメント提出の遅れ】 2件（9/23 ラゴス都市交通SC、11/25 インドシップリサイクルヤードDFR） 【質問のねらい】 概ね徹底されている。

改善策の導入状況(3)続

改善策	導入実績
WG会合の当日運営（資料送付、事前質問等） 【改善策】 ● WG当日に欠席する委員の事前質問等については、 ✓ 原則、回答表でのやり取りのみとして助言案には残さない。但し、回答表を踏まえて他の委員が助言案に残す場合はこの限りではない。 ✓ 事前に出された助言形式のコメントについては、WG（主査）の判断により助言案として残すかを決定する。	● 2016年10月31日のWG以降の案件（6件）で導入。 【欠席委員の質問等】 2件 ✓ 11/21エチオピア総合運輸 ✓ 11/25インドシップリサイクル それぞれ、WGの判断で欠席された委員の事前質問等を助言に残すことに。

改善策の導入状況(4)

改善策	導入実績
<u>WGの議事録作成</u> 【課題】 ● 逐語議事録の作成・修正等に助言委員を含む関係者の労力とコストを要する。 ● 7万円/回程度の録音・テープ起こし費用（WG開催が年間30回＝200万円/年程度の支出） 【改善策】 ● 逐語議事録を廃止し、委員からの事前質問への回答表、助言案、WGのポイント、を代わりに公開する。 ● 上記については、WG会合の終了時に事務局がポイントとなる項目を挙げて、WG担当委員の確認を経る。 ● WG会合から1週間以内を目途にJICA事務局が上記案（叩き台）を作成し、メールでWG担当委員の確認に付す。WG担当委員は主として内容的な確認を行う。	● 2016年9月以降にWGを行った9件で導入。 ● 9件×7万円＝56万円程度のコスト減 ● 論点については、WGでの助言案作成後、事務局より当日議論となった主なポイントを3～5程度挙げ、参加委員の確認を得た上で後日事務局にてドラフト。 ● 論点として記載されているのは以下のような点。 ✓ ESCに際しての今後の課題 ✓ GL運用の考え方の確認 ✓ 国・案件特有の経緯

改善策の導入状況(5)

改善策	導入実績
<u>補完型調査の扱い</u> 【課題】 ● 協力準備調査によっては、EIA/RAP等が既に現地で承認されているにも拘らず、EIA/RAP作成支援を最初から行う協力準備調査と同等の助言を求めてきた。 【改善策】 ● EIAやRAPが既に相手国で承認されていて、JICAとしてJICA GLを満たすための不足分を補完的に調査する場合、スコーピング段階におけるWGの助言対象を補完調査に関連する事項に絞ることも可とする。(例：スコーピングマトリクス、ステークホルダー協議) ● 上記に該当する場合、全体会合における案件概要説明時にJICAから助言対象につき説明する。	● 導入実績なし。

改善策の導入状況(6)

改善策	導入実績
助言確定 【課題】 ● 全体会合の助言確定が1回/月であるため、無理をして月末までにWGを開催したり、助言確定を待つために審査スケジュールが遅れる場合がある。 【改善策】 ● 急を要する場合は、JICAからの要請に基づき、全体会合での助言確定は行わずメールでの確定も可とする。（JICAからの要請は原則WG開催通知時に行う） ● JICAからの要請がある場合、WG担当主査は、回答表、助言案、WGのポイント、をメールに添付の上委員全員にWGの報告を行い、1週間（5営業日）の質疑・議論に付す。 ● メールでの確定を行った場合は、その直後の全体会合で議論等の要旨を報告し、記録を残す。（メールでのやり取りについても発言順・発言者名を記して公表）	● 導入実績なし。

今後の進め方(案)

- 一定程度実績の蓄積された事前配布資料の質の改善、WG会合の当日運営(資料送付、事前質問等)、WGの議事録作成について、各委員に持ち帰り検討頂き、2月の全体会合において各委員からのコメントを基に議論する。
- 導入実績のない改善策については、一定程度実績が蓄積された後に改めてレビューを行う。
- 2月の全体会合での議論を踏まえ、3月の全体会合で再度議論し、上記3点に関する本格導入の可否(必要に応じて改善点)を決定する。
- 上記決定に基づき、2017年4月より、本格的に導入(予定)

参考

